

業務プロセス・システムの標準化の論点

(標準化のミクロの課題)

- 指定都市・中核市等(人口20万以上)における介護のシステム共同化も実現可能か。実現可能であるにもかかわらず、まだ十分に進んでいないとすると、その課題は何か。

(標準化の効果)

- 業務プロセス・システム(様式・帳票を除く。※)を標準化・共同化する効果にはどのようなものがあるか。自治体側の効果のみならず、ベンダ側や住民・企業側の効果としてはどのようなものがあるか。

※ 様式・帳票についての電子化を見据えた標準化は、別途、本研究会で検討予定

(マクロの方策)

- 業務プロセス・システムについて、どこまでの粒度での標準化を目指すべきか。
- 業務プロセス・システムの標準化のためのマクロの方策について、それぞれどのような効果・課題があるか。
- 標準設定型アプローチと共同化型アプローチは排他的なものか、それとも、組み合わせることでより効果的な方策となることが考えられるか。
- 標準設定型アプローチの標準設定の担い手としては、国以外にどこが考えられるか。
- 既存の業務の業務プロセス・システムについて標準を設定する場合、実際に市区町村で行われている業務プロセスや使われているシステムを参考にすることが考えられるか。
- 徹底的にデジタル化が進んだスマート自治体を、2040年頃までに実現すべき自治体の姿として考えるとすれば、そこから逆算して、どのようなステップを踏めば、重複投資なく効果的にその姿にたどり着くことができるか。そのために、短期・中期・長期でどのような取組をすることが考えられるか。

(ミクロの課題を踏まえたマクロの方策)

- 住基事務を例に挙げれば、具体的にどの業務プロセスをどの粒度で標準化することが考えられるか。